

地域医療の向上を図るため 定例の勉強会・登録医集会を開催

馬場記念病院では、登録医の先生方をお招きし、定期的に勉強会を開催しています。地域医療の向上を目的に始まったこの会も、2月2日の開催で42回目を迎え、今回も多くの先生方にご出席いただきました。勉強会では、リハビリテーション科部長の西尾俊嗣医師による「地域連携パスの運用実績」にはじまり、消化器科の真下勝行医師による「当院の早期胃痛に対するESDの治療成績」、脳神経内科の長谷川隆典医師による「見逃されがちな頭痛、まれに遭遇する頭痛」と続き、最後に、脳神経外科の徳永聡医師による「脳梗塞治療最前線」と題した講演が行われました。

勉強会の後に開かれた「第14回登録医集会」では、社会医療法人ペガサス理事長の馬場武彦の挨拶に続き、馬場記念病院事務部長の田中恭子からの登録医の先生方への報告、各診療科部長の紹介が行われました。登録医集会後の懇親会では、登録医の先生方との交流を深める良い機会となりました。馬場記念病院では、より良い地域医療をめざすため、これからも勉強会・登録医集会を継続していきたいと思っています。



子どもたちと一緒に、今、歩み始めています。

2013年4月、「ペガサス第二保育園」が開園しました。第二保育園は、ペガサスのグループ法人「社会福祉法人 風の馬」の二つめの保育園。2011年開設の「ペガサス保育園」と同じく、職員数や設備などの基準を満たした堺市の認可保育所です。笑顔が生き生きと輝く子どもの育成を保育方針とし、自分らしく、意欲的で主体的に行動する子どもを育てます。

職員一同、子どもたち一人ひとりにとってかけがえのない「今」、そして心を大切に、その健やかな成長を支えています。



5月のペガサスセミナー

「本当に怖いタバコのおはなし」PART2

講師：馬場記念病院 呼吸器科 部長 玉垣芳則
日時：5月29日（水）午後2時～3時
場所：馬場記念病院 1階 ロビー

「医療」と「介護」が抱える問題を共有し、 最良の解決策を探ります。

3月16日（土）、ペガサスでは、地域の医療・介護関係者とともに、シンポジウム「気づきから築きへ～地域の医療と介護を考える～」を開催しました。このシンポジウムは、介護保険制度が施行した2000年に、ペガサスが介護保険の利用者増加を見越し、医療と介護の連携をより大切にしたいと考えてスタートしたものです。

今回は、馬場記念病院と連携してくださっている診療所や介護サービス事業所から、医師、看護師、そして、ケアマネジャー、介護福祉士、リハビリテーションスタッフなど、さまざまな職種の方々118名がお集まりくださいました。

テーマは、「その時あなた（事業所）はどうしますか？～私たちが出会った困難事例～」まずは、ペガサスグループの介護士、訪問看護師ら5人が「入院治療の拒否」、「虐待」、「在宅での看取り」など、実際に起こった問題について発表しました。発表の後に設けた質疑応答の時間では、参加者が一緒になってさまざまな質問、意見を交わしました。

個々で抱えている現場での問題を広く共有し、地域全体で最良の解決策を導き出すために…。ペガサスでは今後も、医療と介護に携わる方々とともに、情報共有、実際の取り組みなど、ともに考える機会を設けていきます。



パートナー事業所相談窓口を開設

ペガサスは、地域の介護サービス事業所向け相談窓口として、「パートナー事業所相談窓口（登録制）」を開設。事業所支援の一貫としてスタートしています。

5月のペルセウス介護支援セミナー

「慢性期のリハビリテーションについて」

講師：浜 公彦（理学療法士）
日時：5月30日（木）午後3時～
場所：介護療養型老人保健施設ペルセウス 3階食堂

PEGASUS NEWS



ペガサスニュース

発行人／馬場武彦
発行／社会医療法人ペガサス
大阪府堺市西区浜寺船尾町東4-244
http://www.pegasasu.or.jp/
編集／ペガサス広報委員会 編集グループ
編集協力／HIPコーポレーション
発行／平成25年5月20日

Vol. 59

法人本部から地域の皆さまへ

ペガサスは今年度も引き続き、 泉大津市立病院の 経営改革を支援します。

平成24年4月から、社会医療法人ペガサスは厳しい経営状況に陥った泉大津市立病院の経営改革に参与してきました。これは、泉大津市の要請に応え、ペガサスが経営管理者として「市立病院の医業収益の改善だけでなく、経営におけるすべての改善を図るための業務」を行うものです。

具体的には、ペガサスの理事長・馬場武彦を中心に、ペガサス法人本部や馬場記念病院の職員が定期的に泉大津市立病院を訪問するとともに、馬場記念病院の職員が1名、経営支援室・室長として常駐。泉大津市立病院の経営幹部や職員たちと積極的に対話を積み重ね、信頼関係を構築しながら、これまでペガサスが培ってきた医療提供の仕組みや運用方法のノウハウをアドバイスしてきました。それらの成果は、「救急検討委員会」や「薬事審議会」の発足、「病棟クラーク」

の設置、さらに、近畿地区で唯一の「NASVA委託病床※」の開設など、少しずつではありますが、実を結び始めています。

平成25年度もペガサスは泉大津市と1年間の契約更新を交わし、引き続き泉大津市立病院の経営改革に協力していきます。近隣の公立病院を支援することは、地域医療を守ることにつながり、高い公共性を担う社会医療法人に課せられた地域貢献事業の一環でもあります。泉大津市立病院がもっと地域の期待に応える病院に生まれ変わるように、私たちはこれからも精一杯支援していきます。

※NASVA委託病床は、独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA）の委託により運営する病床で、自動車事故による脳損傷で重度の後遺障害が残った患者さまを対象に、適切な治療と看護を提供する専門病床です。



泉大津市市長・伊藤晴彦氏（右）と
社会医療法人ペガサス理事長・馬場武彦（左）

医学的な質の向上をめざして、 南大阪リハビリテーション学会を 開催。



医療法人輝生会理事長 石川 誠先生

ペガサスでは第一回南大阪リハビリテーション学会を、平成25年3月9日、馬場記念病院にて開催。学会長の社会医療法人ペガサス理事長 馬場武彦の挨拶に始まり、三つの分科会に会場を分けて実施しました。演題数は全部で56。ペガサス、民間病院、大学病院、介護サービス事業

所、教育機関など、リハビリテーションに関わる医療従事者・学生らによる日頃の研究成果が発表されました。分科会終了後は、医療法人輝生会理事長 石川 誠先生の基調講演です。高齢社会でのリハビリテーション医療のあり方、課題についての貴重なお話に、参加者は熱心に耳を傾けました。そして最後は、優秀演題5題、最優秀演題1題の表彰。参加者228名にとって、リハビリテーションの質向上に向け、思いを新たにしたい一日でした。



シリーズ 24 ペガサス健診センター

ゆとりある空間に加え、
細やかなサービスで、
受診時の快適さを追求。ペガサス健診センター
室長 明山 正実女性に配慮した、
充実のアメニティ。

平成25年1月、当院の健診室が、ペガサス健診センターとしてオープンしました。リニューアルのポイントは、空間のゆとりを大切にしたアメニティの向上です。検査室や更衣室のスペースを広く確保するとともに、大きな鏡のあるパウダールームを設置。いずれにおいても、女性職員の意見を取り入れ、清潔感ある心地よい空間を実現しました。このリニューアルをきっかけに、健診を受診される方は増えており、例年、寒い時期は受診の少ない子宮がん検診も、多くの方に受診していただいています。もちろん、以前から定期健診を受診の皆さまからも、男女を問わず好意的な評価をいただいております。「こんなに快適に健診が受けられるなんて」というお声が寄せられています。

装いも新たに、
真心を込めたおもてなし。

変わったのは施設だけではなく、スタッフもまた、ホテルの接客係のような制服に身を包み、気持ちも新たに皆さまをお迎えしています。これまでも、医療従事者として接遇には心を配ってきました。しかし、今回のリニューアルでは、皆さまを「おもてなし」するご案内係としての自覚が、より強いものとなりました。スタッフ一同、毎週のミーティングで、問題点の報告・共有を図り、接遇のさらなる向上をめざしています。

ご質問やお困りのことがあれば、いつでもお気軽にお声をかけてくだ



さい。笑顔と真心、細やかな心配りで、ご案内します。

皆さまの健康を
守るために培ってきた、
確かな検査技術。

ソフト・ハード両面から生まれ変わった健診センター。馬場記念病院が救急・急性期病院として培ってきた確かな技術と、最新鋭の検査機器で、これからも安全かつ適切な検査を実施していきます。脳神経外科専門医である院長・馬場武彦によるもの忘れドックをはじめ、脳ドック、動脈硬化ドック。胃内視鏡やマンモグラフィなど、当院が自信を持ってご提供する検査で、皆さまの健康状態を的確に診断します。異常が見つかった場合は、当院でスムーズに治療を開始することができるので、検査の後も安心です。

生まれ変わったペガサス健診センターは、高精度な検査に加え、アメニティとサービスを大幅にグレードアップし、皆さまの健やかな生活を維持するお手伝いをしていきます。



●パウダールーム



●聴力検査室



●婦人科診察室



●センタースタッフ

TOPICS

1 日米ジョイントフォーラム

米国の最新医療から
明日の日本の医療を考える、
「日米ジョイントフォーラム」開催。

米国の最新医療に学び、今後の日本の医療のあり方を考える。そうした目的で続けられているのが、社会医療研究所所長・岡田玲一郎先生企画の「日米ジョイントフォーラム」です。毎年、米国で活躍する医療の専門家、また医療関係の方々を招聘し、普段では直接耳にする機会が限られている日本の医療従事者に、さまざまな角度から米国医療のあり方の紹介がなされてきました。今年は2月23日(土)と24日(日)の二日間にわたり、東京と大阪にて開催。今回も数多くの来場者が詰めかけ、大変な熱気のなかで講演が行われました。

岡田先生が選んだ今年のテーマは、まずは米国の医療関連訴訟です。患者側の訴訟を思い浮かべる日本とは異なり、米国で急増する勤務医に対する行動基準にポイントを置いて、医療分野に詳しい弁護士が講演しました。また、リハビリテーショ

ン関連としては、入院リハビリテーションとは何か、そして、長期急性期医療を含めた医療機関の機能について、大学教授がお話を展開されました。日本からも慢性期の医療協会会長により、日本の長期急性期医療の展望について講義。最後は、岡田先生が各講師の講演ポイントを整理して、解説してくださいました。いずれの講演も、参加者は熱心に耳を傾け、有意義な時間を共にしました。

ペガサスでは、今後もこの日米ジョイントフォーラムの支援を通じ、地域の医療従事者が医療のあり方を見直す機会を提供し続けていきたいと思っています。

ペガサスでは、今後もこの日米ジョイントフォーラムの支援を通じ、地域の医療従事者が医療のあり方を見直す機会を提供し続けていきたいと思っています。



TOPICS

2 循環器科ニュース

より親しみやすい診療科をめざして
「循環器科ニュース」を創刊しました。

馬場記念病院循環器科では、今年2月に「循環器科ニュース」を創刊しました。ここでは、患者さまが安心して当科をご利用いただけるよう、治療方法やスタッフなどを紹介。また、診療所の先生が患者さまに当科をご紹介くださる際にも、少しでも役立てていただけるよう、当科の活動について、どんどんオープンにしていきます。

地域の皆さまとの信頼を築くために「循環器科ニュース」は、これから定期的に発行していきます。ご期待ください。

TOPICS

3 漢方外来

馬場満記念クリニックでは
「漢方外来」を行っています。

めまい、ふらつきなど自覚症状があっても、診療所で診察や検査を受け、異常がなく、また一命にかかわらないと診断された場合、症状は改善されないまま、治療が行われないケースも少なくありません。そんな患者さまに対して、馬場 満記念クリニックでは、久保俊彰医師による「漢方外来」を行っています。

冷え性や、肩こり、病後の体力低下など、「漢方薬」が得意とする病気もあります。体質的に西洋薬は合わないという方も、ぜひ、「漢方薬」を試してみたいはいかがでしょうか。

遥か昔、検査のない時代に誕生した漢方薬が、多くの方に救いの手を差し伸べられればと思います。



馬場満記念クリニック
漢方外来
担当医 久保俊彰

毎週月曜日 午前診
診察時間：9時～12時
受付時間：8時30分～12時
お問い合わせ先：
TEL 0725-43-2010